



矢島 渚男 選

隔てなく来るもの癒し泉湧く

東京都 中島 徒雁

【評】泉の本質をとらえた大きく優しい秀句。泉は動物も人間も隔てなく癒してくれる。炎暑の時代、水がますます重要になっている。鮎を焼く匂ひに暮るる祖母の背ナ

名古屋 山守 美紀

【評】作者の祖母は鮎を焼くことを仕事にして来られた人なのだろうか。少しかがまった背中を見るのも懐かしく感謝の思い。私も戦時中、父が投網で獲ってきてくれた鮎で育った。方丈記書かれし跡やかなかな鳴く

京都市 吉田 基子

【評】鴨長明は大地震で荒廃した京都から山中に四畳半ほどの庵に住んで方丈記を書いた。一二二二年のこと。その庵の跡で、蠅を聞いた。露深き草を刈り伏す露の上

久喜市 深沢ふさ江

拾ひ上げた蟬から蟻がこぼれけり

大阪府 池田 寿夫

メンデルスゾーン聞く卓上の白桃と

横浜市 奥沢 和子

縁談の後は猥談暑気払ひ

栃木県 あらあひとし

一生を一職人や残る虫

香取市 嶋田 武夫

廃船の繋かれし川鮎下る

相模原市 はやし 央

今日もまた蟬時雨背にリハビリへ

蘆荻川内市 末永 芳子

宇多喜代子 選

陰もなき家並の先に夏の海

みどり市 大内 稔

【評】海までの炎天の道。家並は続いているのだが、日陰はない。たぶんお日様が真上にある時間帯だろう。この道を抜けると夏の海がひらけて見えてくる。部屋を一つ残して秋の夜

岩国市 藤川美智子

【評】あの部屋、この部屋に灯っていた灯を一つ二つと消してゆく。残っているのは、用のある部屋の灯だけだ。静かな秋の夜の一幕である。九十の一人暮しや百日紅

東大阪市 渡辺美智子

【評】九十歳の一人暮らし。当節では珍しくないが、やはり元気でなくてはできることではない。百日紅が元気の象徴として咲いている。豊作を語る如く田水湧く

町田市 谷川 治

朴の花淋しく見たり木曾の雨

神奈川県 新井たか志

風鈴の煩はしき日のありしかな

東京都 杉中 元敏

トンカツをシャキと切る音夏の昼

横浜市 宮内 禎二

ままごとば大人ことばや赤のまま

富山市 藤島 光一

ビルの壁鳴かず動かず油煙

東京都 伊藤 博之

完売の空也最中よ夏暖簾

東京都 鈴木 淑枝

正木ゆう子 選

暑くって死にそうと子のねだるもの

逗子市 鈴木喜久代

【評】欲しい物を言わなくても、死にそうと訴えれば、アイスの類いが出て来る場面だろう。それを知っていて甘える子供と作者の関係性が面白い。品名をばかした下五が上手い。生身魂うなづくすらも堂に入る

下妻市 神郡 貢

【評】傅く人が側にいて、本人はもう多くを語らず、肯くだけ。その様子がいかにも奥ゆかしいのである。尊敬の念が、句から滲み出ている。おおよそ涼しくならぬ絵柄の団扇かな

稲城市 日原 正彦

【評】アニメ関係の絵ではないかと思いがどうだろう。色鮮やかで、情報ぎっしり詰まった、余白の無い団扇。大音響さえ聞かえてきそうな。避難所は母校の豊台風来

東海市 斉藤 浩美

駄菓子屋にプールのにほひ溜まりたる

蓮田市 千葉 玄能

焼酎の空瓶に汲む神の水

対馬市 神宮 斉之

パジャマを着を闇にかくして夜涼み

陸前高田市 及川カヨ子

ひと夏の経験をした頃の夏

土浦市 今泉 準一

リュック見て何泊か当つ山仲間

南房総市 山根 徳一

泳ぎにも真緑出でし屑金魚

大阪市 塚本 宣雄

小澤 實 選

熊谷の四方八方雲の峰

熊谷市 臼井 正

【評】熊谷という地名が、よくはたらいっていると思う。気温の高さで名高い地である。その高温が、土地の四方八方に入道雲をそびえさせている。見えない暑さを見せている。大腿に歩く他なし炎天下

神戸市 吉野 勝子

【評】炎天下を歩くには、どうしたらいいか。できるだけ早く歩いて、早く目的地に着くしかない。「大腿に歩く」のはなかなか賢明である。爪立てて立たなき方の南瓜取る

東京都 松永 京子

【評】庭に二つ南瓜が実った。爪を立てて爪が立たないということは、それだけ固く実ったということ、食べ頃を固さで判断しているのだ。白桃をすすする恥ぢらひ空手女子

志木市 谷村 康志

良く売れてリヤカー軽草の市

東大阪市 梶田 高清

背高泡立草己が毒もて滅びけり

名古屋市 可知 豊親

捕虫網少年浅瀬渡りゆく

武蔵野市 相坂 康

夜干する梅の匂を通りけり

東京都 望月 清彦

嘶家の物売りの声江戸涼し

川越市 横山由紀子

炎天下タイヤホイール落ちてゐる

秩父市 中島由美子